

第2回 国際森林年国内委員会の概要

昨年12月に立ち上げられた国際森林年国内委員会。東日本大震災後初の会合となる第2回会合が開催され、震災復興に寄与する国際森林年の取組について活発な意見が出されました。

4月14日、国際森林年国内委員会第2回会合が開催されました。今回は、東日本大震災後初の会合になることから、震災復興に役立つ国際森林年の取組について議論する場になりました。

冒頭、あいさつした沼田次長は震災の被害概況を説明した後、復旧・復興に林野庁として全力をあげて取り組む決意を示しました。



あいさつをする沼田次長

今回から、新たな委員として、井上篤弘氏（セイホク（株）代表取締役社長）、大久保尚武氏（経団連自然保護協議会会長）、多田欣一氏（岩手県住田町長）が参画。3委員からは、それぞれ合板工場が大きな被害が出たものの、それ以外の工場のフル稼働で仮設住宅用材への対応は可能なこと、三陸海岸に緑の回廊をつくってはどうか、避難者に癒しを与える国産木造の仮設住宅の整備を進めるべきではないかといった意見が出されました。また、復興に向けたグランドデザインを描く中で、森林が重要な位置づけにある、再生プランの実施が被災者への働き場の提供につながるなどの意見が出され、活発な議論が交わされました。

